鎌倉時代

『日本の中心が変わった！　鎌倉で武家の政治がスタート』

鎌倉は、源頼朝が1180(治承4)年に多くの兵を連れて鎌倉に入ってから、1333(元弘3)年に北条高時が自害して、幕府が滅亡するまで、約150年間繁栄した武士の都でした。

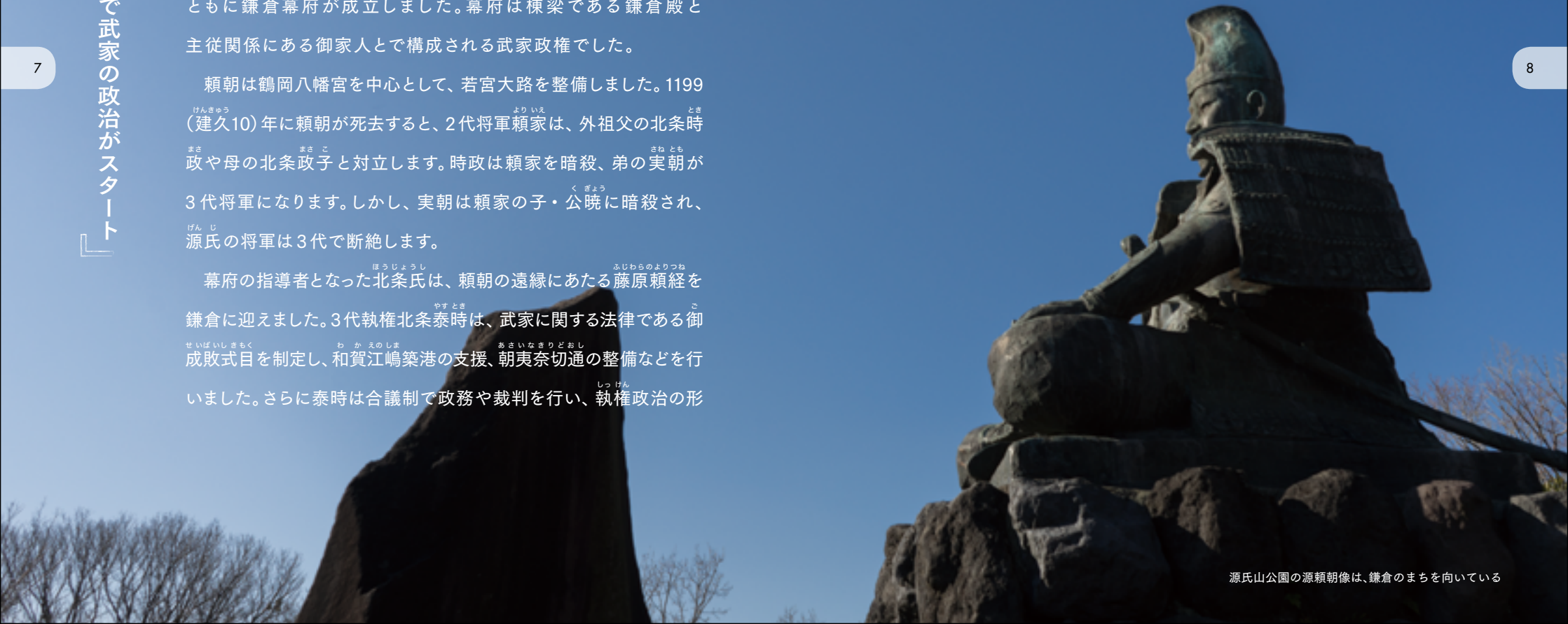
1159(平治元)年、平治の乱のときに平清盛に捕らえられ、20年間も伊豆に流されていた頼朝は、1180(治承4)年に平氏を倒そうと挙兵し鎌倉を本拠地とします。1185(文治元)年、頼朝は平氏を滅ぼし、各国に守護(地方官)、地頭(土地の管理や租税の徴収をした者)を配置。頼朝は、1192(建久3)年に征夷大将軍に任ぜられ、名実ともに鎌倉幕府が成立しました。幕府は棟梁である鎌倉殿と主従関係にある御家人とで構成される武家政権でした。

頼朝は鶴岡八幡宮を中心として、若宮大路を整備しました。1199(建久10)年に頼朝が死去すると、2代将軍頼家は、外祖父の北条時政や母の北条政子と対立します。時政は頼家を暗殺、弟の実朝が3代将軍になります。しかし、実朝は頼家の子・公暁に暗殺され、源氏の将軍は3代で断絶します。

幕府の指導者となった北条氏は、頼朝の遠縁にあたる藤原頼経を鎌倉に迎えました。3代執権北条泰時は、武家に関する法律である御成敗式目を制定し、和賀江嶋築港の支援、朝夷奈切通の整備などを行いました。さらに泰時は合議制で政務や裁判を行い、執権政治の形を整えます。

8代執権北条時宗のとき、元(モンゴル帝国)が二度日本を襲いましたが、元は二度とも撤退します。三度目の元の襲来に備えた西国の防備のために、御家人の経済的な負担が重くなり、幕府への不満が高まります。

後醍醐天皇の討幕運動に呼応した新田義貞らが鎌倉を攻撃すると、14代執権北条高時ら一門と家臣が自害して、鎌倉は陥落し、幕府は滅亡しました。



源氏山公園の源頼朝像は、鎌倉のまちを向いている

鶴岡八幡宮の舞殿(手前)と
石段上の本宮

文学者の足跡

源実朝　1192(建久3)年～1219(建保7)年

12歳で征夷大将軍になった源実朝は、頼朝と北条政子の次男。28歳のときに鶴岡八幡宮で甥の公暁に殺されます。歌人としても知られ、〈世の中は つねにもがもな なぎさこぐ あまの小舟の綱手かなしも〉は、『小倉百人一首』に選ばれています。

1104(長治元)年

荏柄天神社

鮮やかな朱色の社殿が、山の緑に映える

福岡県の太宰府天満宮、京都府の北野天満宮とともに、日本三古天神に数えられる古社(諸説あり)。頼朝はこの社を大倉幕府の鬼門を守る鎮守社としました。朱色に塗られた社殿が華やかです。

天神(菅原道真公)に欠かせないウメの木がある

1180(治承4)年

鶴岡八幡宮

鎌倉の中心、本宮から若宮大路を一望に

源頼義は、平忠常を打ち取ることができたことを喜び、鎌倉の由比ヶ浜辺り(現在、元八幡のある場所)に京都の石清水八幡宮を勧請しました。それから約100年後、頼義の5代後にあたる源頼朝が鎌倉に入ってきたときに、現在の場所に遷し、改めて八幡宮を祀りました。頼朝が八幡宮を信仰したので、諸国の武士もそれに倣い、多くの八幡宮が祀られるようになりました。頼朝の死後も北条氏によって庇護され、豊臣秀吉や徳川家も、再建、復興に努めました。2010(平成22)年に倒れた大イチョウの根元部分から、ヒコバエ(若芽)が若木となって育っています。

鎌倉を深掘り

鎌倉時代を想像させる流鏑馬神事

鶴岡八幡宮では、9月の鶴岡八幡宮例大祭で、流鏑馬神事が行われます。1187(文治3)年の放生会(魚や鳥獣を放し、殺生を戒める儀式)に奉納したのが始まりで、狩装束をまとった武者が馬に乗って走りながら、全長約260mの馬場道に立てられた三的を次々に射る姿は、鎌倉時代の息吹を感じさせます。他にも除魔神事や舞楽など、鎌倉時代にさかのぼる行事があります。

※流鏑馬は4月鎌倉まつりでも行われます。

鶴岡八幡宮例大祭 流鏑馬神事

1182(寿永元)年

若宮大路

鎌倉時代の都市計画を感じながら歩く

鶴岡八幡宮の本宮から見下ろすと、若宮大路がまっすぐに海に向かっているのが見えます。この道は源頼朝が整備したもので、二ノ鳥居から三ノ鳥居までは段葛と呼ばれる参詣の道が残ります。『吾妻鏡』などによれば、妻・政子の安産を祈願してつくられたものとされます。

若宮大路は、滑川橋のたもとから一ノ鳥居、二ノ鳥居を抜け、鶴岡八幡宮入り口の三ノ鳥居までの約1800m

鎌倉を深掘り

源頼朝の都市計画

鶴岡八幡宮前から、由比ヶ浜に向かって南北に延びる若宮大路。頼朝は参道を幅約33mのまっすぐな大路にし、中央には北条時政らの御家人が土や石を運んで段葛を築きました。今も鎌倉を象徴する道です。

1185（文治元）年

小動神社

腰越を守る神社から、江の島や伊豆箱根が眺められる

源頼朝が伊豆に流されていた時代から仕えていた佐々木盛綱が、近江の国から八王子宮を勧請。のちに、新田義貞が鎌倉攻めの戦勝を祈願して、社殿を再興しました。現在の名前は明治時代からのもの。

海際にあり、展望台から江の島がよく見える

1185（文治元）年

銭洗弁財天宇賀福神社

お金を洗うと御利益があるという泉

頼朝が人々を飢饉から救おうと祈ったところ、宇賀福神が夢枕に立ち、この湧き水を教えました。北条時頼もこの神を信仰し、銭を洗って繁栄を祈りました。現在もお金を洗う人が絶えません。

トンネルをくぐって境内に入るのも珍しい

鎌倉を深掘り

鎌倉五山はどう決まったか

五山とは、臨済宗で最高の寺格を幕府が朝廷にはかって決めた五つの寺のこと。この制度は南宋で始まり、日本でも鎌倉幕府によって取り入れられました。初めは京都と鎌倉の寺を一緒にしていましたが、1386（至徳3・元中3）年に室町幕府によって、南禅寺を別格にして、京都と鎌倉それぞれに五山が定められました。鎌倉五山の第一位は建長寺、第二位は円覚寺、第三位は寿福寺、第四位は浄智寺、第五位は浄妙寺。五山の寺は幕府の管理下におかれました。

1188（文治4）年

浄妙寺　開基／足利義兼　開山／退耕行勇

手入れが行き届いた境内には枯山水も

足利義兼は北条政子の妹の夫。退耕行勇は頼朝と政子夫妻に尊敬された高僧です。元は極楽寺といい、のちに浄妙寺としました。鎌倉五山の第五位にあたります。

境内にある枯山水

鎌倉を深掘り

昔の旅人が見た鎌倉の景色とは

鎌倉時代に書かれた『海道記』には、由比ヶ浜の様子が登場。『海道記』では「數百艘の舟どもつなをくさりて」と浜の栄える様子が。また、『とはずがたり』の作者・後深草院二条が通った、由比ヶ浜を一望できる極楽寺坂切通などは、長年旅人たちが鎌倉に着いたことを実感できる絶景ポイントだったようです。

成就院の階段から見る、由比ヶ浜と材木座海岸

1189（文治5）年

法華堂跡（源頼朝墓・北条義時墓）

頼朝の墓の辺りにあった持仏堂

源頼朝が聖観音像を本尊として建てた持仏堂。現在、頼朝の墓がある場所が法華堂の跡といわれています。頼朝は相模川の橋供養の帰りに落馬して、53歳で亡くなりました。病気説、暗殺説もあります。

薩摩藩主・島津重豪が整備した層塔

1192(建久3)年

永福寺跡　開基／源頼朝

二階建ての本堂や大きな池などの跡が

奥州合戦で源頼朝は藤原泰衡に圧勝。そのときに頼朝が見た平泉・中尊寺の二階大堂大長寿院を模して創建したのが永福寺です。二階堂という地名もそのお堂から。発掘調査をもとに復元整備が行われ、当時の伽藍配置や苑池などを見ることができます。

史跡永福寺跡復元CG(湘南工科大学制作)

1200(正治2)年

寿福寺　開基／北条政子　開山／明庵栄西(ようさいともいう)

北条政子が眠る、鎌倉五山第三位の寺

栄西は二度宋に行った高名な僧。茶を日本に広めたのも栄西です。禅宗を勧めたために、天台宗の比叡山延暦寺からの圧力を受け、59歳で鎌倉に来た栄西を、源頼家や北条政子、実朝は歓迎しました。山門から石畳の参道が中門まで続いています。拝観は中門まで。

中原中也

1907(明治40)年～1937(昭和12)年

詩人の中原中也の亡くなる前の様子を、評論家の小林秀雄が描いています。

〈中原は、寿福寺境内の小さな陰気な家に住んでいた。(中略)彼の家がそのまま這入って了う様な凝灰岩の大きな洞窟が、彼の家とすれすれに口を開けていて、家の中には、夏とは思われぬ冷い風が吹いていた。〉(『作家の顔』小林秀雄)

鎌倉を深掘り

埋蔵文化財でわかる中世都市鎌倉の暮らし

鎌倉では、建物などを建築する際、中世の遺跡が見つかります。遺跡から出土する、陶磁器、漆の塗り物、木製品などから、中世の人々の暮らしが想像できます。2017(平成29)年5月、扇ガ谷に開館予定の鎌倉歴史文化交流館では、鎌倉の歴史と文化を出土品などで紹介します。

1219(承久元)年

成就院　開基／北条泰時

季節の花が迎えてくれる眺望の寺

空海が諸国巡礼の折、修法を行ったという場所に北条泰時が建立した寺。本尊は不動明王で、恋愛成就の寺として知られています。由比ヶ浜を眺め下ろせる眺望の良さが特色です。

本尊の不動明王の分身前で護摩供養が行われる

1235(嘉禎元)年

明王院

開基／藤原頼経　開山／定豪

鎌倉時代の特徴をよく表している明王像

茅葺き屋根に蔀戸の情緒ある本堂が迎えてくれる、静かなお寺です。本堂には、不動明王など5体の明王を祀っています。かつては、鎌倉幕府や将軍の鬼門よけの祈願所でもありました。

茅葺きの屋根が、周りの谷戸の緑となじむ

1241（仁治2）年

朝夷奈切通

往時の面影を残す、金沢街道の切通

源頼朝に仕えていた中でも優秀な武士として名をはせた朝比奈義秀が、一晩でつくったという伝説があることから名が付けられた朝夷奈切通。この切通は六浦（現在の横浜市金沢区）と鎌倉を結ぶ重要な交通路だった金沢街道にあります。現在も自動車が通れないこの切通は、中世のやぐらなどもあり昔の面影を残す場所。六浦は貿易港で塩の産地でもあり、朝夷奈切通は鎌倉へ塩を運ぶための道としても使われていました。

1243（寛元元）年

光明寺　開基／北条経時　開山／然阿良忠

材木座海岸に近い、広々とした境内

鎌倉の大きな寺院のひとつに挙げられる光明寺。北条経時が開基となり、関東の浄土宗念仏道場の中心となりました。山門は鎌倉にある寺院の門として最大です。境内も広々としていて、大殿（本堂）も鎌倉一大きい木造の古建築（国の重要文化財）。本堂北側には蓮池を中心とした記主庭園、南側には石庭があります。裏山に登ると、木々の間から材木座海岸や稲村ヶ崎方向、遥かには富士山を眺められます。

光明寺の記主庭園。7月にはハスの花を鑑賞する観蓮会が開かれる

山口瞳　1926（大正15）年～1995（平成7）年

第二次世界大戦後間もない1946（昭和21）年、光明寺を仮校舎として「鎌倉アカデミア」が開校。卒業生には、映画監督の鈴木清順、作曲家のいずみたく、作家の山口、タレントの前田武彦ら。山口は、この学校で歌人の吉野秀雄に学び、後に『江分利満氏の優雅な生活』で直木賞を受賞しました。

左右から崖が迫り、昼も薄暗い朝夷奈切通

鎌倉を深掘り

鎌倉を特徴づけている切通という場所

三方を山に囲まれた鎌倉の地形は、鎌倉が幕府所在地として選ばれた理由のひとつといわれています。当時の鎌倉は、10万人もの人が住む都市として栄え、多くの人や物資が行き来するために山を切り開いて道を通しました。今も残る切通は、中世からの道です。武蔵と結ぶ「亀ヶ谷坂」「仮粧坂」「巨福呂坂」、藤沢、京都方面と結ぶ「大仏切通」「極楽寺坂切通」、三浦半島へと通じる「名越切通」、六浦（現在の横浜市金沢区）の交通路「朝夷奈切通」は「鎌倉七口」と呼ばれ外部とつながる重要な道でした。比較的軟らかい凝灰岩の鎌倉石は削りやすく、切通を歩くと岩肌を目前に見ることができます。

※巨福呂坂は通行できません

この宝篋印塔は鎌倉時代後期～南北朝期の作
※裏山にある冷泉為相の墓。木・土・日曜の公開

1251（建長3）年

浄光明寺　開基／北条長時、北条時頼　開山／真阿

扇ガ谷にある静かな古寺

北条氏や足利氏の菩提寺。収蔵庫には鎌倉時代の阿弥陀三尊像が祀られ、鎌倉独特の土紋装飾が特徴です。山中に、『十六夜日記』の作者・阿仏尼の息子、冷泉為相の墓といわれる宝篋印塔があります。

1253（建長5）年

安国論寺　開山／日蓮

名越の松葉ヶ谷で日蓮の足跡をたどる

日蓮が鎌倉で構えた庵の跡に立つ寺。境内の岩屋で、日蓮が『立正安国論』を書き始めたといわれ、政治と既存仏教の問題点を北条時頼に訴えました。裏山には富士見台があり、海と材木座方面のまちが見えます。

本堂。右手に山道があり、南面窟に至る

鎌倉を深掘り

武士の宗教・禅宗

源氏三代が滅びると、執権として幕政を担うことになった北条氏は、当時最先端の禅宗や中国文化を取り入れるため、現在の北鎌倉に禅宗寺院を次々と創建。蘭渓道隆や無学祖元など宋から来朝した僧を呼んで開山しました。座禅を組んで精神統一を図り、悟りを得ようとする禅は、修行をして初めて救いが得られるという点で、日々鍛錬が必要な武士の信条と共通するものがあり、武士に受け入れられていきました。

1259（正元元）年

極楽寺　開基／北条重時　開山／忍性

貧しい人々を助けた、慈悲の寺

元（モンゴル帝国）が日本に襲来した（元寇）ときに、幕府・朝廷の命令で忍性が異国退散を祈禱した真言律宗の寺。かつては広い敷地を持ち、病院施設もありました。忍性は優れた土木技術を持った人々を抱えていたと考えられます。

茅葺きの山門を入ると、サクラ並木がある

1260（文応元）年

妙本寺　開基／比企能本　開山／日蓮

比企一族の悲劇を伝える谷戸

源頼朝に仕えた比企一族が北条時政に滅ぼされた際、生き残った比企能本が日蓮に寄進した自邸跡でもあります。初夏のシャガ、紅葉が見事。事前に予約すれば、写経体験ができます。

祖師堂は重量感ある瓦屋根と力強い構造が特徴

春の日の大仏（銅造阿弥陀如来坐像）

1252（建長4）年～

鎌倉大仏　開基・開山／不詳

美男と評判の仏を訪ねる

鎌倉大仏は国宝。つくられた当時の姿をほぼ保っているものの、1252（建長4）年に鋳造が開始されたこと以外は謎につつまれています。初めは木造だった大仏を青銅仏にしたといい、胎内に入ると高度な鋳造技術がうかがえます。もともとは大仏を覆う大仏殿がありましたが、鎌倉幕府が滅びたあとに台風や大津波により倒壊したといわれています。露坐の大仏になりました。境内にはあちこちに礎石があり、大仏殿の規模が想像できます。

与謝野晶子
1878（明治11）年～1942（昭和17）年
歌人の与謝野晶子は〈かまくらや みほとけなれど 釈迦牟尼は 美男におはす 夏木立かな〉と詠みました。その歌碑が高徳院境内にあります。

文学者の足跡

鎌倉を深掘り

宋風とは何かが よくわかる、大仏の見方

鎌倉大仏の横に回ってみましょう。ずいぶん前かがみになっています。実はこの姿勢こそ、宋の影響。鼻の高いエキゾチックな顔、人間のような姿勢が宋風のポイントです。

1253（建長5）年

建長寺　開基／北条時頼　開山／蘭渓道隆

五山一の威容を誇る禅宗大寺院

鎌倉五山第一位、臨済宗建長寺派の本山。宋から来日した蘭渓道隆が禅を広めた寺で、幕府と強く結び付きました。本尊は地蔵菩薩坐像です。堂々とした三門、仏殿、法堂が一直線に並び、道隆が種をまいたというビャクシンの巨木がそびえます。野菜や豆腐入りのけんちん汁はここが発祥といわれています。毎週金・土曜に坐禅会があります。

本尊地蔵菩薩坐像を祀る仏殿

1282（弘安5）年

円覚寺　開基／北条時宗　開山／無学祖元

谷戸の奥へと続く、鎌倉らしい趣

二度の元寇（元との戦い）で亡くなった両軍の兵士を弔うため、第8代執権北条時宗が宋から無学祖元を招いて建てた禅宗寺院。臨済宗円覚寺派の本山で、鎌倉五山の第二位。本尊は宝冠釈迦如来坐像。妙香池、白鷺池などの池があり、国の名勝に指定されています。国宝の舎利殿は、室町時代の名建築・大平寺（廃寺）の仏殿を移築したもの。早朝や土・日曜に坐禅会が開かれます。

仏殿の宝冠釈迦如来坐像は、冠をいただく珍しい姿

円覚寺の山門

夏目漱石
1867（慶応3）年～1916（大正5）年
小説家の夏目漱石は、円覚寺へ参禅の際、円覚寺塔頭帰源院へ止宿。
〈山門を入ると、左右には大きな杉があって、高く空を遮っているために、路が急に暗くなった。その陰気な空気に触れた時、宗助は世の中と寺の中との区別を急に覚った。〉（『門』夏目漱石）

文学者の足跡

島崎藤村
1872（明治5）年～1943（昭和18）年
島崎藤村も円覚寺塔頭帰源院に滞在した経験をもつ小説家です。『春』『桜の実の熟する時』に、鎌倉の風景や人々が描かれています。藤村が鎌倉を訪れるようになったのは、「文學界」同人の星野天知の別荘があったためでした。

文学者の足跡

1281（弘安4）年

浄智寺　開基／北条宗政、北条師時　開山／兀庵普寧、大休正念、南洲宏海

山寺のような風情の参道が心を静める

鎌倉五山の第四位。北条時頼の子・宗政の菩提を弔うために建てられた臨済宗円覚寺派の寺です。1323（元亨3）年に行われた北条貞時13回忌の際、参加した僧侶は200人を超え、建長、円覚、寿福の三寺に次ぐ規模を誇りました。仏殿の阿弥陀如来、釈迦如来、弥勒如来の三世仏は県の重要文化財、境内は国の史跡に指定されています。境内には鎌倉一の大きさのコウヤマキやハクウンボクがあります。小説家・澁澤龍彦の墓があることでも知られています。

過去現在未来を示す三世仏は、鎌倉時代の特徴を表す

鎌倉七福神のひとつ、布袋像がやぐらの中に

1285（弘安8）年

東慶寺　開基／北条貞時　開山／覚山尼

宝蔵も見学したい四季折々の花の寺

江戸時代は「駆込み寺」として広く知られていました。開山の覚山尼は北条時宗の妻。後醍醐天皇の皇女・五世用堂尼以来、一層寺格が高まり、江戸時代には徳川幕府の庇護を受けました。寺宝を展示する松岡宝蔵も必見。

控えめな山門をくぐると、四季の花が迎えてくれる

1296（永仁4）年

覚園寺　開基／北条貞時　開山／智海心慧

茅葺きのお堂に心和む境内

2代執権北条義時が十二神将の戌神将のお告げを受けて建立した薬師堂を前身とする寺院です。本尊は薬師如来で、鎌倉時代の様式です。参拝は時間制で、案内してくれます。

本尊は薬師三尊像、周りには十二神将が並ぶ

1327（嘉暦2）年

瑞泉寺　開山／夢窓疎石

梅、水仙、新緑などが美しい花の寺

足利基氏をはじめ、代々の鎌倉公方の菩提寺として、高い格式を誇りました。夢窓疎石が岩盤を削ってつくったといわれる岩の庭は、書院庭園のもととなり、国の名勝に指定されています。竹林やモミジでも知られています。

モミジが多く、錦屏山という山号もそれにちなむ

山崎方代

1914（大正3）年～1985（昭和60）年

放浪の歌人・山崎方代は、鎌倉・手広の「方代草庵」に住みました。瑞泉寺には、〈手のひらに 豆腐をのせて いそいそと いつもの角を 曲りて帰る〉の歌碑があります。

1333（元弘3）年

大町釈迦堂口遺跡

風が通り抜けていく切通

大町から浄明寺に抜ける釈迦堂口切通は岩をくりぬいたトンネルです。鎌倉内にあるので、七口には数えられていません。この上にはやぐら群があります。現在は土砂崩れの危険があるので、通行禁止です。

1334（建武元）年

報国寺　開基／足利家時　開山／天岸慧広

風に鳴る竹の葉の音が印象的

古くから境内の孟宗竹の林が有名で、「竹庭の寺」と呼ばれています。本尊は釈迦如来坐像。開山の天岸慧広は元に留学した僧で、慧広自筆の詩集『東帰集』は、国の重要文化財になっています。

竹に見とれるひととき。裏山にやぐらが点在する

1336（延元元）年

宝戒寺　開基／後醍醐天皇　開山／円観慧鎮慈威

初秋の白いハギの花で知られる寺

後醍醐天皇が北条一族の霊を弔うために、足利尊氏に命じて執権北条氏の屋敷跡に建立させたといわれる寺。初秋にはシロハギが参道脇に咲き、ハギの寺として知られます。本尊は子育て地蔵として信仰される地蔵菩薩坐像（国の重要文化財）。

秋には、本堂前や参道にシロハギが咲き乱れる

文学者の足跡

後醍醐天皇

1288（正応元）年～1339（暦応2・延元4）年

宝戒寺は、後醍醐天皇が建てさせた寺。後醍醐天皇は鎌倉幕府を倒そうとして隠岐に流されましたが、天皇の呼びかけに応じた新田義貞によって鎌倉幕府は滅亡します。〈うづもるる 身をば歎かず なべて世の くもるぞつらき 今朝のはつ雪〉『新葉和歌集』

鎌倉を深掘り

中世に出合うやぐら、石塔

多くの谷が連なる鎌倉。「谷戸」と呼ばれる谷の斜面を削って掘った、やぐらをよく目にします。これは中世に造られたもの。やぐらは武士や僧侶などの支配層の埋葬や供養の場で、壺に入れられた火葬骨が五輪塔などとともに納められていることが多く、面積が狭かった鎌倉の土地の有効活用方法ともいわれています。覚園寺、浄光明寺、瑞泉寺など谷に建てられた寺の裏に多くあります。主なやぐらには北条政子や源実朝の墓といわれる寿福寺やぐら群、仏像や五輪塔などが刻まれている瓜ヶ谷やぐら群、覚園寺奥の百八やぐら群などがあります。

浄光明寺の網引地蔵やぐら

鎌倉を深掘り

力強さから中国風へ ―― 鎌倉時代の美は個性的！

源頼朝は、鎌倉に鶴岡八幡宮、勝長寿院（廃寺）、永福寺（廃寺）などの大きな社寺を建立。京都や奈良から工人などを招いたため、鎌倉時代初期には京都の文化が鎌倉に伝わりました。

なかでも、仏像製作の中心は、奈良仏師の成朝やその流れを引く運慶です。力強い表情や量感のある体つきの仏像を作りだした運慶とその一門の仏師は、鎌倉の武士たちに支持されました。

その後、5代執権北条時頼が、宋から渡航した中国僧・蘭渓道隆を招いて建長寺を開いたのが契機となり、禅文化が入ってきました。日宋交易によって、宋ブームが起こります。宋風の彫刻は、人間らしい表情や複雑で流れるような衣服、異国情緒が特徴で、13世紀半ばから14世紀にかけて、鎌倉と関東地方の仏像の主流になりました。代表的なものには、円応寺の「初江王坐像」（国重要文化財、鎌倉国宝館寄託）、浄光明寺の「阿弥陀如来および両脇侍坐像」（国重要文化財）などがあります。

同じ時期に頂相彫刻が生まれました。頂相とは印可状（悟りを認める証明書）とともに弟子に与えられた禅の師の肖像画で、その彫刻版が頂相彫刻です。円覚寺「仏光国師坐像」（国重要文化財）、建長寺「大覚禅師坐像」（国重要文化財）、瑞泉寺「夢窓国師坐像」（国重要文化財）など、写実を追求した表現が特徴です。

「初江王坐像」（国重要文化財）円応寺蔵